

「最期まで自分らしく」 小規模多機能ホーム三宿のお看取り

小規模多機能ホーム三宿
長谷川 裕和

Aさんについて

女性 80代 要介護4 独居

親族とは疎遠 友人Bさんがサポート

認知症（短期記憶の低下が主）

難聴な為、声がとても大きい

人とかかわるのが嫌い



サービス利用前

友人Bさん



地域包括支援センター



Aさん

保健福祉課



親族



サービスを開始

安否確認

訪問
サービス

水分補給

食事提供

信頼
コミュニケー
ション

環境整備

サービスを開始

口調は優しい

顔は怒ってる？



台所に行くことが減ってくる

お手洗いにいくことが困難になる

環境整備を実施

歩行も介助がなくては難しい

ベッドの上での生活が増える

起きて座ることも減ってくる

廃用症候群の危険性

他のご利用者様に会うと
眉間のシワが消え、笑顔に！



近所に買い物？

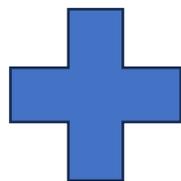


ホームへ行ってみる？



ドライブ後へホームへ立ち寄って見ることに

訪問介護



週3回の通所



写真はイメージです

意識消失



あがりかまち

新たなサービスの必要性

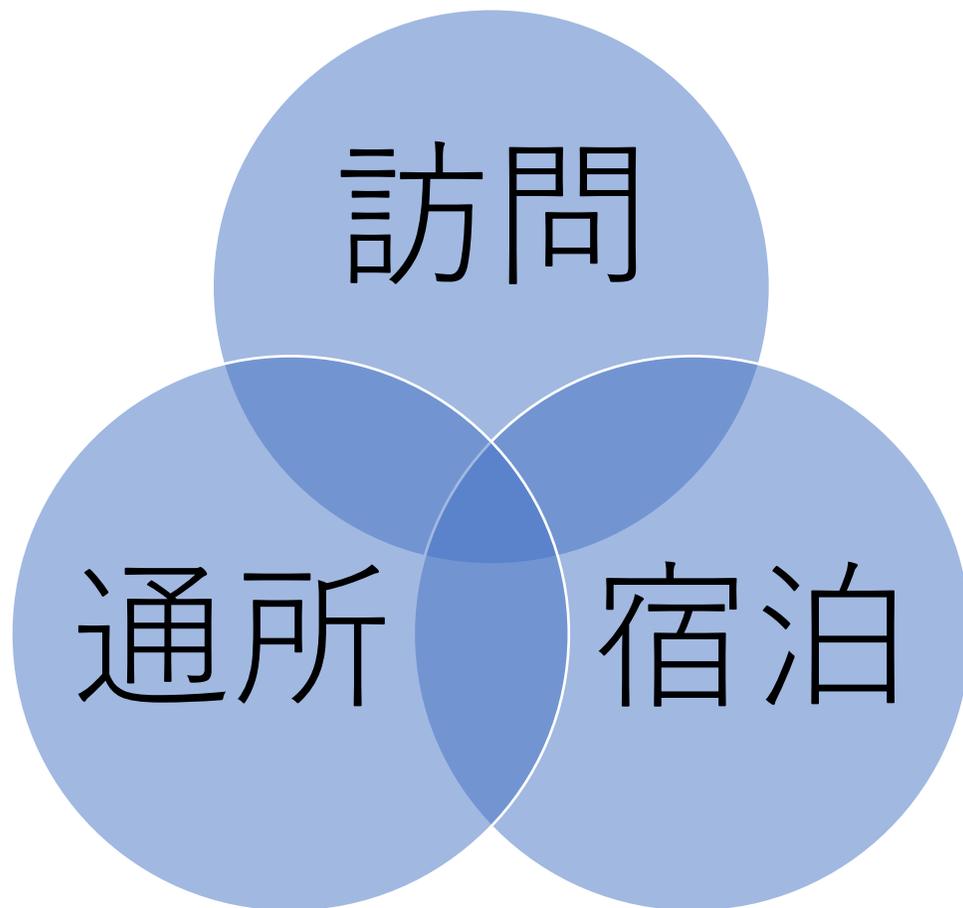


- 心臓機能の低下
- 血栓がある
- 食事が困難
- 宿泊サービスの利用
- リクライニング式車椅子を使用

訪問診療との連携開始



2度目の意識消失！



ハンモック式移乗

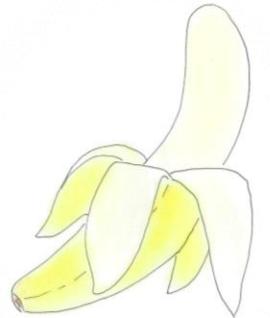
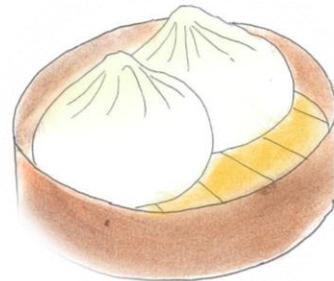


※ホームでの往診対応には必要条件があります

終末期ケアに向けて



自分らしく過ごしてもらうために



自宅からホームへ

普段と変わらない様子で
通所

通所後、1時間程経過

うまく会話できず、呼吸
が苦しそうになる。気道
確保の体位にてすごす

主治医が到着

先生の声掛けにも何かを
伝えようとされるが視線
を動かすのみ。

帰宅は難しい為、宿泊す
ることに

職員が行った対応

声掛け

口腔内の保湿・保清

痛みがないように、除圧

大切なこと

どの様に過ごしたいかを知る

寄り添うこと

どうしたら実現できるか考える



まとめ

「もう一つの家」

介護

医療

福祉





ご清聴ありがとうございました。